

岩事研広報

No.212

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

令和4年1月31日

第50回岩手県公立小中学校事務研究大会 特集

岩手県内における新型コロナウイルス感染状況に鑑み、今後の学校事務研究の方向性や支部研究の成果を共有する貴重な機会を確保するため、研究集録に加え、初の取組として動画配信により開催しました。

動画公開期間：令和3年11月12日（金）～令和4年1月16日（日）

大会テーマ 『創造しよう！ 学校事務の将来像を ～笑顔が広がる いい学校をめざして～』

記念講演及び各支部発表内容の要旨は、次のとおりです。

また、会員の皆さまから動画視聴のご感想をいただきましたので、ご覧ください。

< 記念講演 > 新しい時代の学校事務と学び続ける事務職員

全国公立小中学校事務職員研究会 会長 阿部 貴子 氏

○ 子どもたちを取り巻く状況・教育や学校にもとめられているもの

子どもたちは、多様な価値観を認め合いながら、変化する社会と主体的に向き合い、自らの人生を切り拓いて行くと共に、より良い社会の創り手となるための力を身につけることがもめられる。

一方、日本の若者の自己肯定感は低い傾向にある。自己肯定感が低いと、自分が幸福になるために必要となる資質を十分に育むことが難しく、子どもたちの幸福度は高まりにくいと考えられている。このことから、子どもたちの自己肯定感を高めるための仕組みを、子どもの学びに意図的に組み込んでいくことが重要である。

○ 学校事務職員に求められるもの・これからの事務職員像

学校事務職員は、総務・財務事務に関して専門性を有する学校唯一の教育行政職員である。

教員とは違った視点を持ち、学校全体を見渡すことができる。その専門性を生かし、「人・もの・かね・情報」の資源を戦略的に活用し、教育的効果を最大化することが重要である。

また、関係機関との調整による問題解決能力を強みとし、学校の教育力を高めることが学校事務職員にもとめられている。学校を取り巻く状況は、より複雑化・多様化していることから、よりよい学校づくりには、変化し続け学び続ける事務職員であることが大切である。

<全事研第3期グランドデザインより> これからの事務職員像

- (1)子どもの豊かな学びの場を協創する事務職員
- (2)学校運営をマネジメントし政策提言していく事務職員
- (3)組織に必要な人材を育成し体制を構築していく事務職員
- (4)新たな価値を創造する事務職員
- (5)情報をマネジメントする事務職員

なによりも岩手の子どもたちに幸せになって欲しいという思いから、研究活動を行っている。

これからも岩手の事務職員の皆さんと岩手の教育を創っていきたい。



記念講演を視聴して 大船渡市立末崎小学校 主事 紀室 豪 さん

学校事務における事務職員の役割の変化や歴史、今後のあるべき姿を考えさせられるご講演でした。

今現在においても、新型コロナウイルスの感染拡大、GIGAスクール構想など、我々だけでなく子どもたちの学び方もめまぐるしく変化しています。そのような状況の中で、今後事務職員はどうあるべきか、どう行動していかなければならないのか、広い視野を持ち、事務職員として子どもたちのさらなる教育環境の改善を考えていく存在でいなければならないと感じました。

私は、学校経営においても、今ある資源をどう活かしていくか、校内唯一の行政職員として教員とは異なる視点で学校に良い影響を与えられるような事務職員になりたいと思っています。そのために今学校でどのような問題、課題があるのかを見極める分析能力、PDCAサイクルを用いてどのようなプロセスで解決していくかなど、自分に足りないものは何かを講話を聞いて浮き彫りとなりました。学校事務職員として、自分の今後の課題として捉え、日々職務に励みたいと思います。

講演の最後にお話しされていた、学校の一員として子どもたちの学びを第一に考え、それに向けて他の教職員や保護者、地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り協働し、共に子どもたちの成長を支えていく、そのような姿勢が理想の事務職員に近づく第一歩なのではないかと思いました。

< 盛岡支部 > 学校事務職員の職務確立をめざして

～日々の実践と連携をとおして学校事務のあり方を探る～

平成24年度までは個人研究を取り組んできたが、組織的に取り組むことによりさらに事務改善を進めることができるため、平成25年度から3班の班別研究に取り組んでいる。平成30年度からは班を4班とし、研究を深めてきた。

- 給与処理班：旅費起点地図の更新・手当等の情報共有
・旅費に関する市内調査など
- 財務服務班：事務未経験者や市外転入者向けの資料配信
・財務会計システムマニュアルの作成
- 情報処理班：共有フォルダ、専用フォルダの使用について
・市内統一の文書保存形式について
- 教育支援班：市費会計事務の手引きの見直し作業



8年間の班別研究で様々な研究がなされたことで、多くの研究結果が得られ、日常の情報交換もでき、業務の平準化へとつながった。また、事務改善委員会が総括主任会と連携し、毎年行った提言の積み重ねにより、事務改善委員会がワーキンググループの一員として参加できるようになった。これらの研究・実践・連携を続けることが学校事務職員の職務確立に繋がると考える。

「つかさどる」になり4年が経過し、事務業務以外にも「折衝」「交渉」「調和等」様々な能力が必要とされる昨今、引き続き研修内容・参加意識・事務の平準化を課題とし研究を続けていく。

盛岡支部発表を視聴して 遠野市立綾織小学校 主事 萩野 友理恵 さん

盛岡支部の発表を視聴しました。集金改善、共有フォルダの改善や保存形式の統一など、遠野支部の研究にも参考になる内容でした。事務職員一人一人が持つ日頃の疑問や気づきを共同実施で集まり研究に取り組むことは、もちろん我々の業務改善につながります。改善の先にあるものは学校をより良くすることであり、その恩恵を子どもたちが享受できることだと思います。

私達の取組が事務職員だけの取組で終わらないように、教員や関係機関と関わり合いながら取り組むことが大切だと感じました。先日、遠野支部で取り組んでいる研究の一環で学校職員へのアンケートを実施しましたが、用務員からその取組に教務主任なども関わった方がいいのではないかと意見をもらいました。事務の仕事は学校に一人の専門職ですが、事務だけで完結する仕事ではなく教職員、保護者、市教委など様々な人との関わりがあります。ほかの立場の人達の負担も減らすこ

とで、私達の負担も減らすことが出来るような、お互いにとって良いものになるような取組にしていきたいです。様々な視点を得て、私達の研究もより発展させることが出来ればいいなと思います。

何事も漠然と取り組んでいたのでは改善は叶いません。自らの意思を持って職務に取り組む、そのような取組への意識を心がけたいと思いました。

< 岩手支部 > 育てる人・育つ人 ～人材育成に未来の願いを込めて～

ベテランの事務職員から研究実績を受け継ぎながら、新採用者や若手にとって学びの場となる研修会を目指し、研究活動を行っている。

<地区事務研の取組：年3回の全体研修会>

- 共同実施での新採用者研修情報共有
- 若手事務職員の研究発表 ○ジョブローテーション経験者発表
- 講演や講義 ○事務状況調査交流会

実践発表経験による若手職員のスキルの向上や成長から、若手に引っ張られるようにして地区の事務職員全体の成長へと繋がっていく。

<滝沢市共同実施の取組：事務職員の働き方改革の取組>

- スケジュール管理表の活用、就学支援業務の市内統一

若手職員を取組に関わらせ「何が出来るか考えさせる」ことで将来における共同実施運営や業務管理の在り方を考えさせることに繋がる。

事務研活動を通して、多くの事務職員の意識が「一人職」から「学校の一員、共同実施組織の一員」へと進化したのではないかと考える。若手の人材育成のみならず、全ての職員の人材育成にあたり、学校の経営にも大きく影響するのではないかと。みんなで力を合わせ、時代の変化に対応し、次の世代の事務職員へバトンを渡したいという願いを込めて、これからも研究を続けていく。



岩手支部発表を視聴して 西和賀町立湯田中学校 主任主査 松本 真樹 さん

小中学校にも新採用事務職員が増え、人材育成が喫緊の課題となっていることはどこの支部でも同じです。「人材育成」となると、ベテランが一方向的に教えることを中心に行いがちですが、若手事務職員を「指導者」として新採用者研修担当とし「教える側」に位置づけたことで、新採用事務職員は、気軽に相談することができ、若手事務職員は、新たな学びを得ることと考える仕事をする事の大切さを知り、中堅やベテラン事務職員は、若手が指導をしている場面から気づくことができるので、この方法が三者に与えるメリットは非常に大きいことが分かりました。まさに発表のタイトル通り、支部の事務職員全員が「育てる人」であり、「育つ人」となる素晴らしい研究だと感じました。

また、教員の働き方改革は議論が進んでいるものの、私たち事務職員の働き方改革は置き去りにされているように思う中、岩手支部の皆さんが実態把握と分析及び改善策を組織的行ったことで、効果ははっきりと現れ、非常に達成感の高い取組だと思いました。そして、市教委や校長会、副校長会との連携を図れたことも組織的に取り組んだことで得られた成果だと感じました。

今は事務研の研究も大きく転換する時期だと感じています。岩手県内各支部の現状と課題、そして研究成果を自身の支部に持ち帰り、大いに参考にしながら今後の研究活動に活かしていきたいと思えます。

< 胆江支部 > 一人ひとりの実践力を積み上げる研修活動

～子どもの笑顔あふれる学校作りを具現化する学校事務実践と学校事務職員の成長へつなぐ～

平成26年度研究大会において「実践力を高める研修活動」というテーマで発表。現在も継続して子どもの豊かな育ちを支援する学校事務の実現を目指し、積み上げてきた実践の継承、キャリアアップ、人材育成も取り入れた研修体系を検討し、胆江地区版のみんなでできる実行策「えがおプラン2021～2022（胆江支部中期研修計画Ⅲ）」の取組を進めている。

○全体研修 **事務研としてのアクション**

T J P（胆江事務プラン）カリキュラムによる資質向上研修の実施
県能力開発研修職場研修支援教材（DVD）の活用
県全体研修会とリンクできる取組の考慮
胆江地区学校事務研究大会の開催



○個人研修（一人一実践） **個人としてのアクション**

えがお・チャレンジシート（自己目標設定シート、組織マネジメントシート）の作成、実践を通じたスキルアップと学校経営への参画



○共同事務室との連携 **共同実施としてのアクション**

人材育成（3年目以下研修、新採用指導）
業務としての一人一実践の交流

課題を整理し、より良い「えがおプラン」を構築するとともに、今後も継続して学校経営への参画を進め、「事務をつかさどる」学校事務職員として成長を目指していく。

胆江支部発表を視聴して 一関市立赤荻小学校 主査 岩元 優子 さん

このコロナ禍において、「学びあう」ことは本当に難しいと感じています。第50回の節目でもある今大会を、すべての会員が見て、聞くことができるWeb視聴という形で開催して下さったこと、ありがとうございます。おかげ様で遠隔地への移動や感染の心配なく、貴重な機会を得ることができました。人とつながることが難しい昨今、「一人ひとり」をどうつなげていくのか、その方策を知りたくて、興味深く発表を拝聴しました。

胆江支部の取組は「えがおプラン」と名付けられ、2012年度から10年も継続されているとのこと。この10年間といえば、それまでの10年間での採用がほとんど無かったにも関わらず、多人数の退職、新規採用の増加とジョブローテーションの導入と、事務職員全体の年齢構成が大きく動いた10年でもありました。その時々課題も多かったこととお察ししますが、PDCAサイクルの基本を変えず、検証を続けてこられたことに敬意を表します。事務研・個人・共同実施で取り組むべきことを明確にし、えがお・チャレンジシートを用いて状況を可視化したことで、後戻りしない取組が実現できていると感じました。

また、これまでと現在の状況が見えることで、課題を見つけやすく、アドバイスももらいやすいので、学ぶために人とつながるツールとして最適であると思います。

実践発表を行ったお二人も、課題から次の実践へと行動する力が素晴らしく、2・3年でこの成長度合いはすごいとしか言いようがありません。研究を土台として、胆江支部の皆さんが大切に育ててこられたのだろうと思いました。研究の成果が子どもたちの笑顔をどう具現化させたのか、もっと詳しい検証を聞いてみたい発表でした。

各発表支部への書面での助言については、大会報告書へ掲載されます。

※ 大会報告書は、各支部を経由してデータにて配布します。

< 編集後記 >

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

本号発行にあたり、4名の皆さまには快く感想をお寄せいただき、ありがとうございました。

次号No.213が今年度最終号となります。第53回全国公立小中学校事務研究大会埼玉大会（オンライン開催）や、次年度以降の各種研究大会について掲載する予定です。年度末も近づいて参りましたので、皆さま健康第一にお過ごしください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

